

大野山将来ビジョン (案)

2021年(令和3年)12月

猪名川町

目次

1	大野山将来ビジョンとは.....	1
	（1）ビジョンの目的	1
	（2）対象エリア	1
	（3）ビジョンの期間	1
2	大野山の現状と経過	2
	（1）大野山の概要と経過.....	2
	（2）施設等の概要と利用状況.....	4
3	関係者の意向.....	6
	（1）近年の関係者の協議経過等	6
	（2）キャンプ場利用者の意向	6
	（3）ヒアリングに基づく関係者の意向.....	7
	（4）来訪候補者の意向.....	9
4	大野山の現状と課題のまとめ.....	13
5	大野山がめざす姿・将来イメージ	14
	（1）基本的な考え方	14
	（2）想定するおもなターゲット	14
	（3）大野山の将来コンセプト.....	15
	（4）将来イメージ	15
6	取り組み方向.....	18
	（1）山頂部の取り組み方向.....	18
	（2）山腹部の取り組み方向.....	19
	（3）山麓部（周辺地域）の取り組み方向.....	19
	（4）交通アクセス	20
	（5）運営・発信等	20
7	ロードマップ（スケジュール）	21
8	推進について.....	22

1 大野山将来ビジョンとは

(1) ビジョンの目的

2016年（平成28年）3月に策定した「猪名川町観光振興基本計画」の中で、「大野山魅力アッププロジェクト」としてリーディングプロジェクトの1つに位置づけ、「大野山活用将来ビジョンの策定」を明記しました。それを受け、2016年（平成28年）から、関係者による「大野山魅力アッププロジェクト会議」を開催し、「大野山」のあり方について検討してきており、同計画や会議での協議結果をもとに、整備や取り組みを行ってきました。

こうした経過を踏まえて、大野山の魅力を多方面に広く発信し、有効に活用することで、柏原地区を含む大島小学校区域や町全体の活性化につなげることを目的に、大野山の将来のあり方を描く「大野山将来ビジョン」を策定します。

(2) 対象エリア

大野山および周辺地域一帯

(3) ビジョンの期間

10年先の将来のあり方を描き、その実現のための取り組み方向を示します。

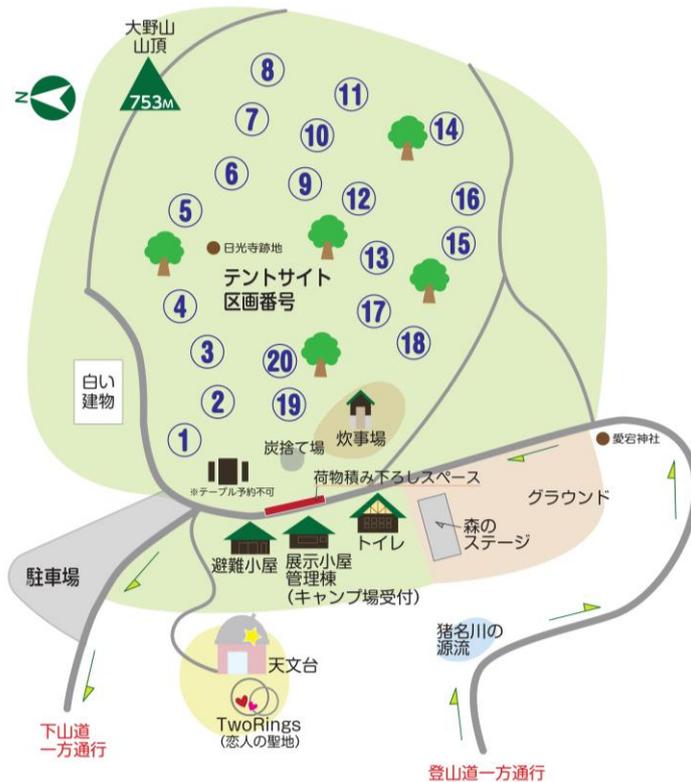
2 大野山の現状と経過

(1) 大野山の概要と経過

- ・阪神地域の最高峰（六甲山系を除く）である標高753mの大野山は、1965年（昭和40年）に柏原生産森林組合がキャンプ場を開設、1985年（昭和60年）から、町の施設として「自然について学び、心豊かな生活に触れられる場所」として、柏原生産森林組合に管理を委託し、キャンプ場を運営してきました。
- ・1987年（昭和62年）には、展示小屋・避難小屋の完成とともに、「大野アルプスランド」として施設をオープンしました。
- ・2002年（平成14年）には、猪名川天文台を開設、2006年（平成18年）からは、柏原生産森林組合が指定管理者として、大野アルプスランド（キャンプ場・天文台含む）の維持管理を行ってきました。
- ・2019年（平成31年）4月、恋人の聖地に選定され、翌年にはモニュメントを設置し、PRの強化に努めています。
- ・利用者マナーの悪化から、2019年（平成31年）1月から約2年間、キャンプ場を閉鎖。また、2020年（令和2年）～2021年（令和3年）にかけては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、施設の閉鎖や時間短縮が生まれました。同時期に、大規模な施設改修や利用ルールの見直しなどを行い、2021年（令和3年）12月、大野アルプスランドをリニューアルオープンしました。
- ・「大野アルプスランド」は、豊かな自然の中にあるキャンプ場や天文台、山頂から見る景色や美しい星空、あじさい園やハイキングコースなど、多くの魅力を有していることから、同施設を含め、麓地域一体としての「大野山」は、猪名川町にとって欠かすことができない観光資源となっています。

■大野アルプスランドの施設概要

設置目的	自然について学び、心豊かな生活の実現に寄与するため、森づくり、天体観測、野外活動、レクリエーション活動などの推進を目的に設置した自然共生型施設である。
設置箇所	猪名川町柏原字尾野ヶ嶽1番地の1
開設年月日	1965年（昭和40年）4月（キャンプ場開設）
施設構成	猪名川天文台、展示小屋管理棟（キャンプ場受付）・避難小屋・トイレ棟・上水設備・グラウンド、野外ステージ（森のステージ）、キャンプ場（炊事場を含む）、駐車場 遊歩道・あじさい園・散策道（岩めぐり）
施設の管理運営	柏原生産森林組合が指定管理者として運営 （現在、第4期指定管理期間；令和3年度～令和7年度）
アクセス	車で、猪名川町役場から約30分、大阪市内から1時間強



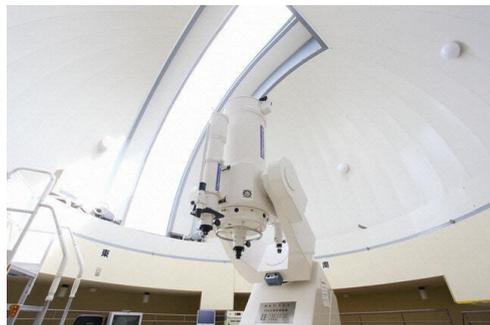
■大野山に関連するこれまでの取り組み経過

1957年(昭和32年)	猪名川渓谷(大野山含む)が県立自然公園に指定される
1961年(昭和36年)	阪急バスが柏原(大野山麓)まで乗り入れ
1965年(昭和40年)	柏原生産森林組合によりキャンプ場開設
1983~1984年 (昭和58~59年)	作業道を開設
1985年(昭和60年)	キャンプ場を町の施設として借り受け(炊事場・便所などを増設)、柏原生産森林組合による施設管理委託開始
1987年(昭和62年)	展示場・避難小屋・展示林を整備(緑とふれあいの里整備特別対策事業)「大野アルプスランド」として運営開始
1992年(平成4年)	あじさい植樹(4年にわたり植樹本数 約20,000本)
2001年(平成13年)	作業道(駐車場~ゴルフ場前まで)をコンクリート舗装と落石防護柵設置(町単費)※兵庫森の祭典に向けての整備
2002年(平成14年)	猪名川天文台(アストロピア)竣工・開設(4月) 兵庫森の祭典(5月・兵庫県・猪名川町・兵庫県緑化協会共催)
2006年(平成18年)	柏原生産森林組合に指定管理者として管理運営を委託
2009年(平成21年)	トイレ新設(バイオトイレ)
2016年~ (平成28年~)	大野山魅力アッププロジェクト会議の設置開催(6回) (関係者であり方について検討し、先行的にその一部の整備や取り組みを実施)
2018年(平成30年)	落石防護柵設置工事
2019年 (平成31年、令和元年)	利用マナーの悪化によりキャンプ場の閉鎖(1月) 恋人の聖地に選定される(4月) ※2019年度(令和元年度) 落石防護柵設置工事、あづまや整備、天文台屋根修繕、Wi-Fi整備、防犯カメラ設置
2020年(令和2年)	作業道安全対策工事、恋人の聖地モニュメント設置、給水管の布設、駐車場整備
2021年(令和3年)	水洗トイレ新設、炊事場改修

(2) 施設等の概要と利用状況

①天文台「アストロピア」

- ・施設1階ではデジタルプラネタリウムでの星の学習、2階では50cm反射望遠鏡で星空観察や日中の太陽の黒点観察などができます。
- ・2019年度（令和元年度）は201日開台し、入台者数は約6千人となっています。なお、2020年度（令和2年度）以降は新型コロナウイルス感染症拡大による休台などにより来台者数は減少しています。



②キャンプ場

- ・自然のままの形状を活かした緑に囲まれたキャンプ場です。
- ・利用者のマナー悪化により、2019年（平成31年）1月よりキャンプ場を中止しましたが、多数の再開要望により、利用者を明らかにして受け付けし、2020年（令和2年）12月より試行的に再開しました。
- ・2021年（令和3年）3月より利用マナーの向上や適正利用の意識啓発の取り組みの一環とし、有料化としました。



③恋人の聖地

- ・2019年（平成31年）4月、大野アルプスランドは、都市近郊でありながらも豊かな自然に囲まれ、天気の良い日には大阪市や神戸市内の夜景が見られること、満天の星を楽しめることなどが「プロポーズにふさわしいスポット」として評価されたことから、阪神地域初となる「恋人の聖地（運営主体：NPO法人地域活性化支援センター、後援：観光庁）」に選定されました。
- ・2020年（令和2年）11月には、シンボルとなるモニュメントTwo Rings（一般公募により決定）を設置しました。ウェディングフォトの撮影などにも利用されており、大野山のプロモーションとしての効果が見え始めています。



④岩めぐりコース

- ・白亜紀の火山の噴火によってできた数々の巨岩・奇石を楽しみながらハイキングを行うことができ、ボランティアガイドの案内コースにもなっています。



⑤あじさい園

- ・大野山は標高が高く、平地より気温が低いことから、6月下旬～7月上旬にあじさいが見ごろを迎え、多くの花が来場者を楽しませます。
- ・2014年度（平成26年度）にシカによるあじさいの食害が発生し、その後、あじさい保護を目的とした防護柵の設置などの対策を行いました。
- ・一時的な効果は見られたものの、キャンプ場の閉鎖や新型コロナウイルス感染症の影響による来場客の減少に伴い、シカの施設内への侵入が増え、その食害は更に深刻化しているため対策を検討しています。



⑥駐車場

- ・山頂の駐車場の台数は約40台であり、無料で利用できます。
- ・イベント時には、アクセス道も含めて渋滞が発生する場合もあり、大野山麓地域での臨時駐車場の設置や大野山への乗り入れ規制なども含めて総合的な対策が必要です。

⑦その他

- ・展示小屋等は、小学生の遠足時のレクリエーションや、地域団体の活動の場、イベント時の飲食の販売や休憩所として活用されています。
- ・指定管理者等が一般公募を募り、美化イベント等を開催し、施設の修繕や樹木伐採、伐採した樹木を使用した山頂までの階段設置、あじさいの間引き清掃などを行っています。



3 関係者の意向

(1) 近年の関係者の協議経過等

1) 「大野山魅力アッププロジェクト会議」での検討

- ・大野山のあり方について検討する「大野山魅力アッププロジェクト会議」を2016年（平成28年）12月に設置し、2019年（令和元年）10月まで計6回の会議を開催してきました。
 - ・会議での到達点は、①キャンプ場等の利用者によるマナーが悪いので有料化や管理体制を改善すべき、②イベント時の駐車場やアクセス道の渋滞などへの対応が必要、③物販等の便益機能のニーズがあるが具体的な対応が課題、④下山道や水道、トイレ等のインフラ整備が必要、⑤指定管理者である柏原生産森林組合の人員等の高齢化が進んでおり、今後の継続的な施設管理が難しいなどです。
- ※①、④については先行して対応を進めています。

2) 柏原生産森林組合の意向

- ・柏原生産森林組合の組合員を対象とするアンケート調査（組合員72名を対象に65名から回答。2020年度（令和元年度）実施）の主な結果は以下のとおりで、キャンプ場再開の意向が高く、かつ使用料徴収の意向が多くなっています。

- キャンプ場再開の意向：再開してよい45人 再開すべきでないは20人
 - 再開にあたって使用料徴収の意向：徴収すべき39人 徴収すべきでない6人
- ※再開してよいに回答した人が対象

(2) キャンプ場利用者の意向

- ・2017年（平成29年）6～8月のキャンプ場利用者に行ったアンケート（11日間で90組が回答）では、利用人数が1～2人が利用組数全体の6割で、40代以上が利用者数の半数を占めています。また、居住地は阪神エリアが約40%、大阪市が約25%などとなっており、概ね半数は大阪府内となっています。
- ・2021年（令和3年）3～4月に試行的に再開したキャンプ場利用者へのアンケート調査では、利用者は1人や家族、友人・仲間などが多く、利用人数は1～2人が多くなっています。

(3) ヒアリングに基づく関係者の意向

2021年（令和3年）6月に、関係課、町内の観光団体、経済団体、地域団体等を対象に、大野山のあり方等についてヒアリング調査を行った結果の要点は以下のとおりです。

■現状と課題

	現状	課題
大野山	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と静けさを求めてくる人が多い。 ・ 山頂から360°見渡せるところは珍しい。 ・ 四国の山まで見えて、海に夕日が沈む風景がきれい。 ・ 岩めぐりが人気。 ・ 天文台は大人向けのレジャー。 ・ 恋人の聖地に認定されてから人が増えている。 ・ トレイルランの大会をきっかけに交流人口は増えた。 ・ 大会参加者の満足度が全国のトレイルランの大会で1番高く、景品のお米の評判もよかった。 ・ マウンテンバイクで全国1位になった方が大野山まで練習しに来ている。そのコースを使うことができる。 ・ 渡り鳥の通り道であり、バードウォッチングをする方も多い。 ・ カブト虫やクワガタが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャンプ場が無料のためお互い無責任な感じになりマナーが悪くなるのではないかとターゲットがはっきりしていない。宝の山だが、どうやって活用するか。 ・ 主要観光地と言われているが、地元はあまり実感がない。 ・ 山頂に来たときに飲食や買えるものがない。 ・ 車が増えるときの対応策が必要。天文台とキャンプ場利用で駐車場を分けてほしい。 ・ 薪や炭のニーズもあり、一度販売もしたが、継続できていない。 ・ 天文の話ができるスペースがない。 ・ トレイルランの取り組みを通じて、活性化、移住など次のステップにつながるとうい。
周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田オーナーは以前やっていた人気があった。 ・ 奥猪名健康の郷周辺は紅葉を見ることのできる場所があり、絶滅危惧種のハッチョウトンボも生息している。 ・ 飲食店や喫茶店、個人の雑貨屋をやりたい人が、空いている物件を借りる、また、購入して開業したいという問い合わせが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家が増加している。 ・ 大島で少子高齢化、過疎化が進んでいる。 ・ ハイキングコースが自転車のコースと重なる。 ・ 農泊をしたい農家もいたが、宿泊としては設備面の問題があり実現のハードルがある。

■今後の方向

大野山	<p>【全体の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットは、大人向けだと思う。 ・ ふらっときて楽しめる山であるとよい。(夕日、お正月に行く、初めてのキャンプなど) ・ 観光客のみならずまずは住民に向けてアピールすることも重要。 ・ 山頂に特化した取り組みが考えられる。 ・ 民間事業者も交えて運営や整備をする方がよい。 ・ 磨くべき資源であり、体験とセットにするなどしてPRできるとよい。 <p>【キャンプ場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者に適正な利用を促すため、今後は有料化の方向が望ましい。 ・ ゆったり使え、ロケーションがよいことを魅力としてPRするとよい。 ・ インターネットで予約できるシステムを活用したい。 ・ グラウンドは、キャンプ場用の駐車場などで活用した方がよいのでは。 ・ 平日は子ども、週末は家族をターゲットにすることも考えられる。 ・ テントサウナとドラム缶を使ってみたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節的なことを発信するのはどうか。(リングに夕日が落ちるところが見れるなど) ・ 写真を撮って発信してもらえるような仕掛けが必要。 ・ 町内のパンと挽き立てのコーヒーでの朝食、合わせてヨガなどができるといいのではないか。 ・ 売店など人のいる場があると、来訪者とのコミュニケーションがとれるし、まちの良いところも紹介できる。 ・ ドッグランやペットを絡めて何かできないか。 ・ 自転車初心者が遊べるよう傾斜を作って整備することも考えられる。 ・ 大野山とゴルフ場と連携できないか。キャンプ利用者がゴルフ場のお風呂を使えるなどすると魅力的である。
周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古民家を改修して飲食店等ができるようになれば。 ・ 体験農園、貸し農園等のニーズがあるのではないか。 ・ 田んぼでの体験を学生と連携してできないか。 ・ 歴史文化ウォーキング開催から始めたい。 ・ ワーケーションの推進はよい。 ・ お試し居住や、その際に地域の魅力体験も合わせて実施できるとよい。 ・ キーパーソンとなる人が駐在し、シェアオフィスやワークスペースがあり、地域内外の人とつなぐ拠点があればいい。 ・ 市街化調整区域に立地誘導できるように他の部署と連携しながら調整していきたい。大島小学校区は、観光客のお店が増え、それが地域の人のためにもなると思う。

(4) 大野山への来訪候補者の意向

大野山について、2021年（令和3年）7月～8月に町民及びこの5年間に猪名川町への来訪経験のある周辺市の居住者を対象とし、インターネットを利用したアンケート調査を実施しました。その結果の要点は以下のとおりです。

■ 回答者の状況

猪名川町住民の他周辺市の居住者含めて総数で723件の回答を得ました。

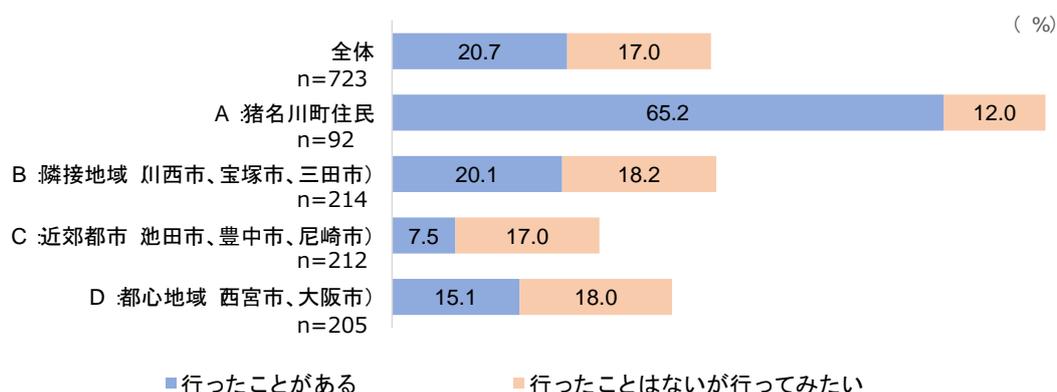
居住地		合計	年齢別			平均値
			20～34歳	35～49歳	50歳以上	
総数	合計	723	186	255	282	46.7歳
	男性	374	82	137	155	48.2歳
	女性	349	104	118	127	45.0歳
A：猪名川町住民	合計	92	5	21	66	56.3歳
	男性	55	1	9	45	58.7歳
	女性	37	4	12	21	52.6歳
B：隣接地域 (川西市、宝塚市、三田市)	合計	214	56	86	72	45.8歳
	男性	108	23	49	36	46.8歳
	女性	106	33	37	36	44.8歳
C：近郊都市 (池田市、豊中市、尼崎市)	合計	212	59	78	75	46.0歳
	男性	109	25	44	40	47.4歳
	女性	103	34	34	35	44.5歳
D：都心地域 (西宮市、大阪市)	合計	205	66	70	69	44.0歳
	男性	102	33	35	34	45.0歳
	女性	103	33	35	35	43.0歳

※居住地B～Dは、世帯で自動車を保有しており、かつこの5年間に猪名川町への仕事以外で来訪経験がある人を対象。
※グラフ中のnは、回答者総数を表している。

■ 結果の要点

1) 大野山への来訪経験と来訪意向

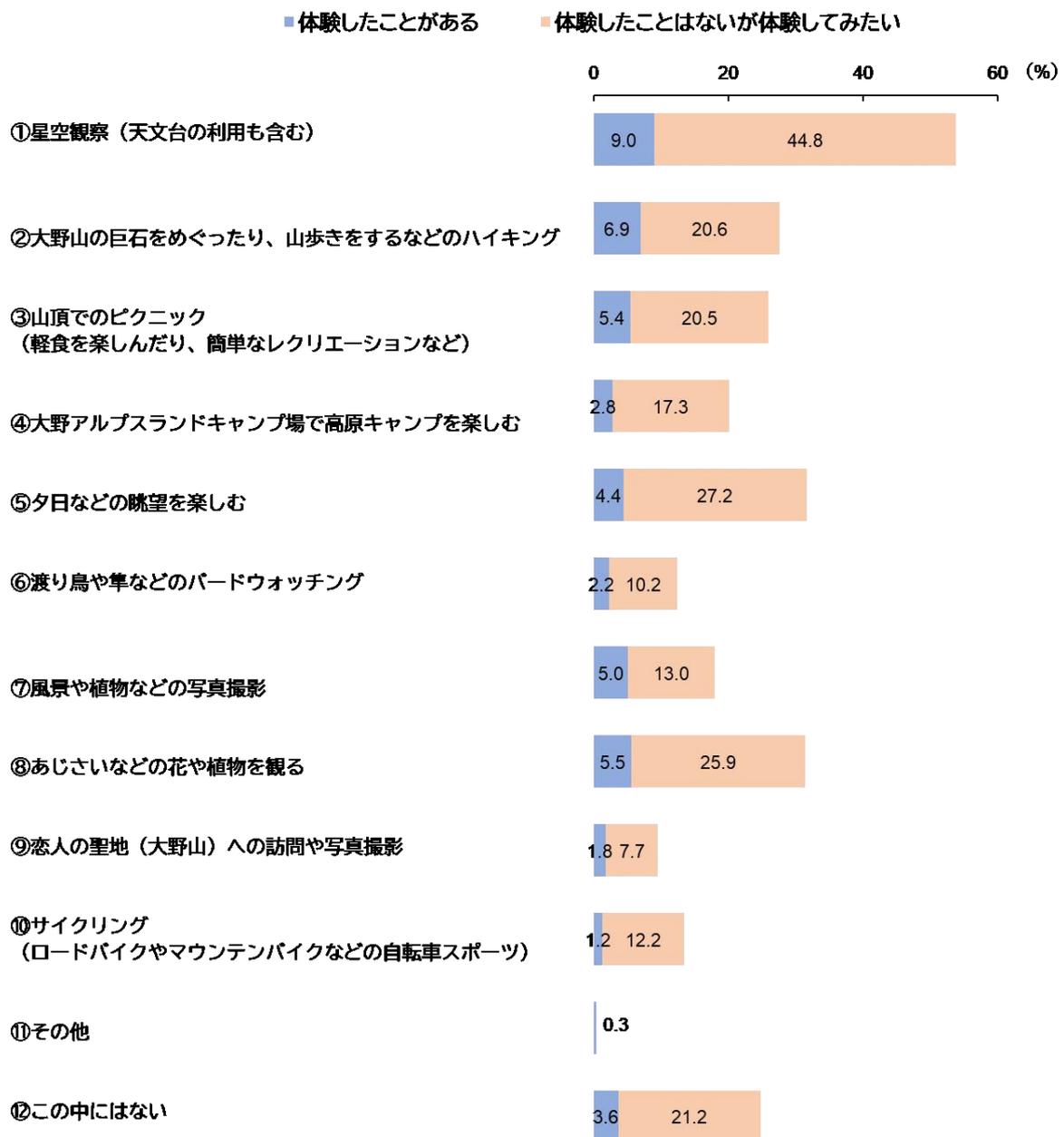
- ・大野山に「行ったことがある」と回答した割合は20.7%となっています。
- ・居住地別でみると、大野山に「行ったことがある」と回答した割合が猪名川町民では65.2%であるのに対し、隣接地域では20.1%、近郊都市では7.5%など相対的に低くなっています。
- ・大野山に「行ったことはないが行ってみたい」と回答した割合は、猪名川町民では12%ですが、猪名川町以外では17～18%と比較的高くなっています。



2)大野山で体験したことがある（または体験してみたい）アクティビティ

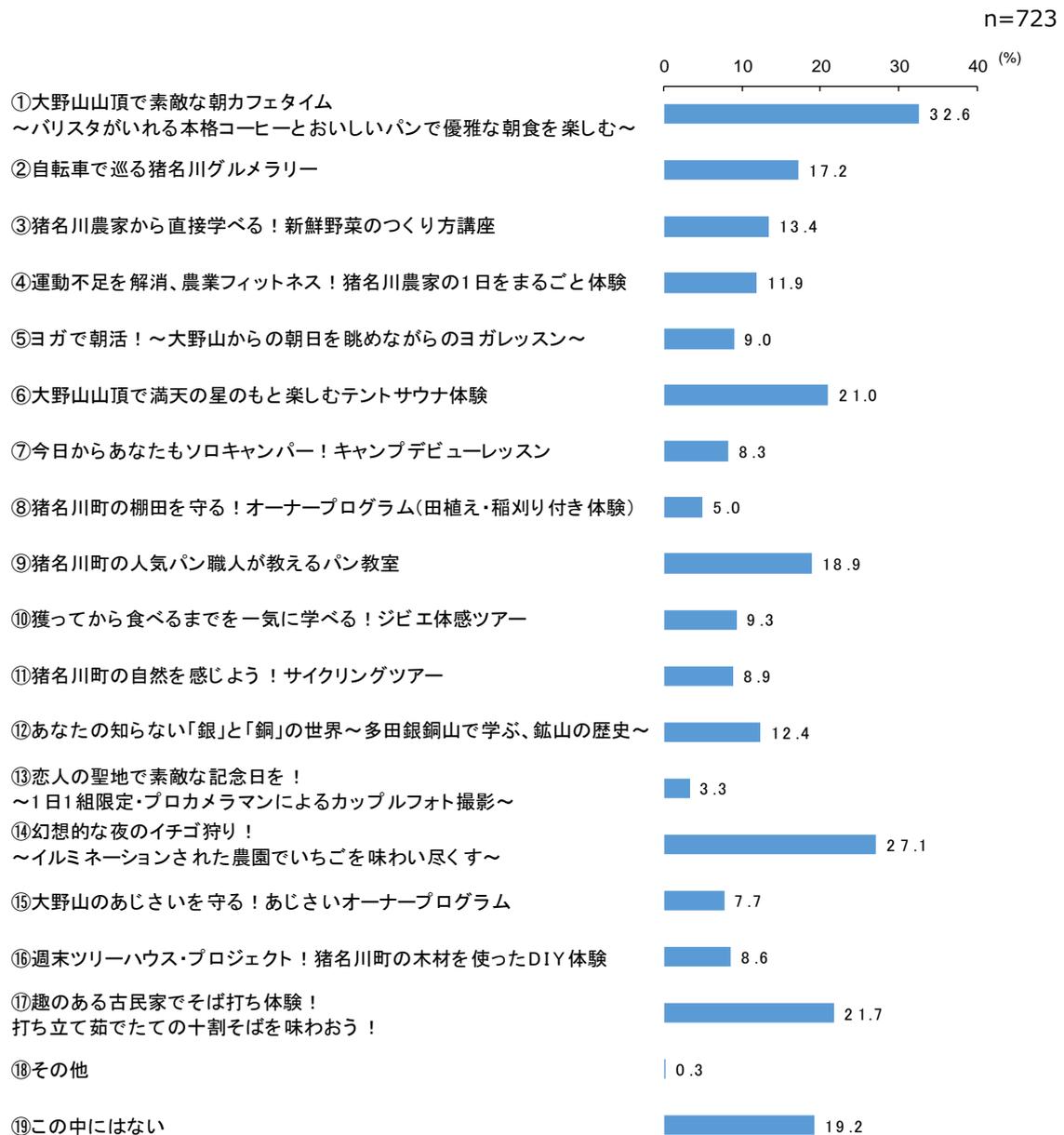
- ・大野山で体験したことはないが体験してみたいアクティビティは、「①星空観察（天文台の利用も含む）」が約45%と最も高く、次いで「⑤夕日などの眺望を楽しむ（約27%）」、「⑧あじさいなどの花や植物を観る（約25%）」などと続いています。
- ・「⑫この中にはない」が約21%であることから、回答者の約79%が何らかのアクティビティを体験してみたいと回答しています。

n=723



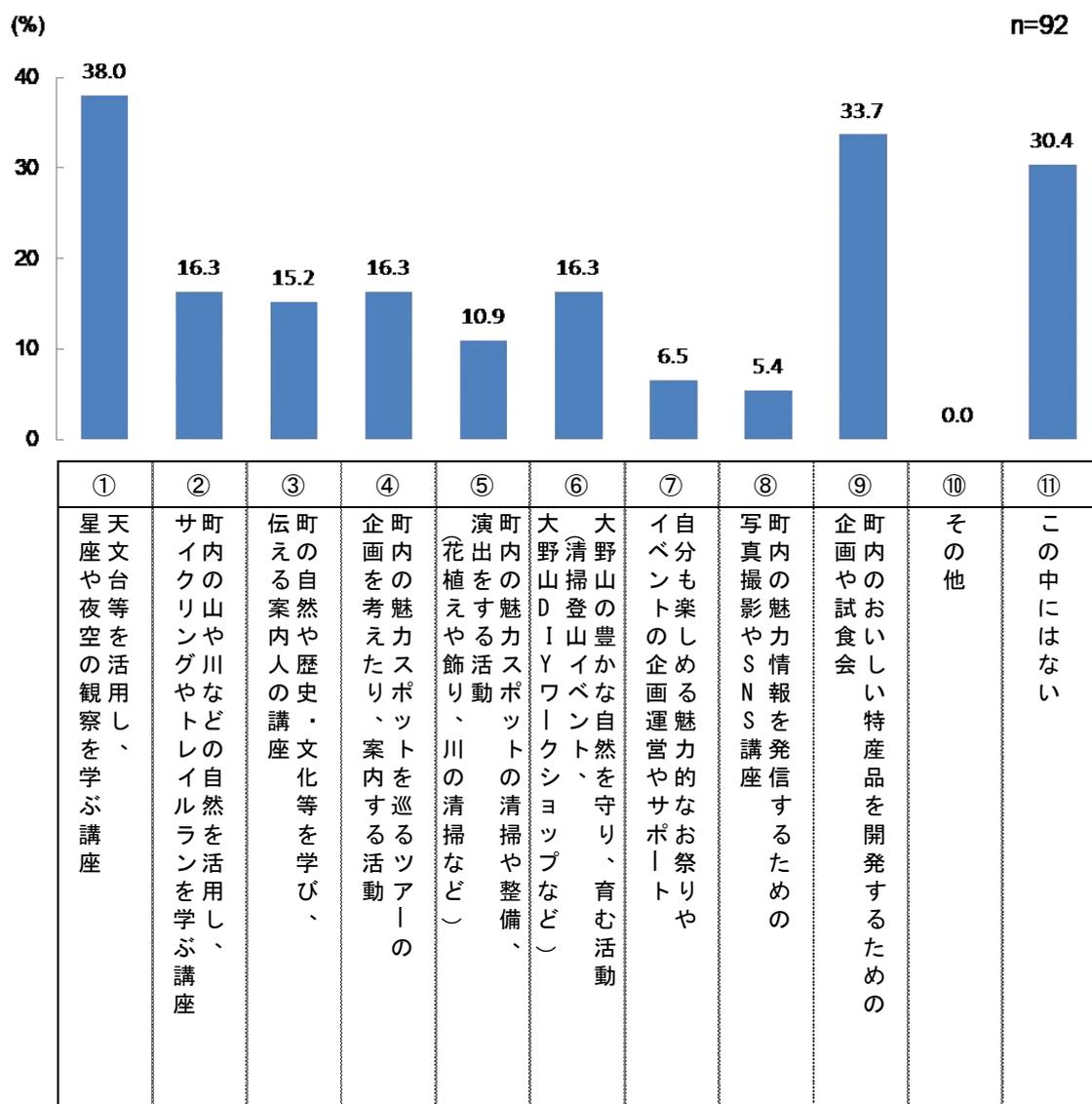
3)猪名川町の地域資源を堪能できるイベントへの参加意向

- ・大野山に関連するイベントの参加意向を見ると、①大野山山頂で素敵な朝カフェタイム（約33%）が最も高く、次いで⑥満天の星のもと楽しむテントサウナ体験@大野山山頂（21%）、⑤ヨガで朝活！～大野山からの朝日を眺めながらのヨガレッスン～（9%）となっています。
- ・大野山山麓など周辺地域で実施可能性のあるイベントの参加意向をみると、⑰趣のある古民家でそば打ち体験（約22%）、猪名川農家から直接学べる！新鮮野菜のつくり方講座（約13%）などとなっています。



4)猪名川町住民の観光まちづくりへの関わり意向

- ・猪名川町住民を対象に観光まちづくりへのかかわり意向を尋ねたところ、「①天文台等を活用し、星空や夜空の観察を学ぶ講座」が約38%と最も高く、次いで「⑨町内のおいしい特産品を開発するための企画や試食会」が約34%と高くなっています。
- ・「⑪この中にはない」が約30%であることから、約70%の回答者が何らかの方法で観光まちづくりに関わりたい意向を示しています。



4 大野山の現状と課題のまとめ

大野山の概要・経過、関係者の意向等を踏まえた、大野山の現状と課題を以下に示します。

内部要因			
プラス要因	強み（S）：大野山の強みや魅力 ①大都市圏や広域から比較的近い（大阪市内から1時間強。新名神高速も活用可） ②阪神地域の最高峰（六甲山系を除く）で360度の眺望（夕日や瀬戸内海、夜景等） ③星空の観察に最適（周辺に光源がなく星空がきれい。プログラムの充実した天文台の存在） ④山頂にあり、自然の中でのんびり過ごすことのできるキャンプ場 ⑤恋人の聖地に選定されている（インスタ等での投稿、ウエディング写真等の撮影利用） ⑥あじさいの花の風景（6～7月） ⑦特徴のある岩があり、岩めぐりができる ⑧豊かな自然・生態（渡り鳥の通り道、クワガタやカブトムシが多い等） ⑨トレイルラン、マウンテンバイクなどでの活用	弱み（W）：大野山の問題点 ①施設の老朽化 ②鹿によるあじさいの食害 ③大野山利用者による利用マナーの問題（一部のキャンパー）、山への不法投棄、ポイ捨て等 ④集客イベント時の駐車場や道路混雑の問題 ⑤現指定管理者の高齢化等により、継続的な維持管理が困難 ⑥住民はあまり来訪しない、馴染みが無い ⑦楽しめるコンテンツが少ない（体験・食等） ⑧お金が落ちる仕組みや場が少ない ⑨収益施設等の立地に関する規制等の課題	マイナス要因
	機会（O）：大野山の伸びしろやチャンス【町内】 ①観光施設に関する取り組みの強化による町全体の観光客増加の可能性 ②周辺に宿泊施設やゴルフ場、棚田などの魅力資源などがあり、連携の可能性はある ③町内の多様な活動団体の存在。住民の観光まちづくりへの関心層の存在 【一般状況】 ④コロナ禍による自然の中でのアクティビティの注目、アウトドア志向 ⑤ソロキャンプなど、個人志向を優先したレクリエーション活動の増加 ⑥SDGsなどを踏まえた持続可能なツーリズムの世界的な動向	脅威（T）：大野山のマイナス要因や競争激化 【町内】 ①大野山を取り巻く地域の力の弱体化（大島小学校区域全体の人口減少、少子高齢化の進行、空き家の増加等） 【一般状況】 ②周辺の類似施設との競争（能勢、丹波篠山、三田など周辺の自然環境やキャンプ場等）	
外部要因			

5 大野山がめざす姿・将来イメージ

大野山における地域資源や魅力等の現状と課題を踏まえて、大野山の将来に向けた基本的な考え方を以下のとおり設定します。

(1) 基本的な考え方

① 自然環境を壊さない適正利用を基本に、大野山の魅力の最大化を図ります

大野山の最大の魅力は、大都市部の近くにもありながらも自然環境が豊かなことです。施設内の自然環境の保全とその適正利用を基本に、キャンプ場や天文台などの資源も含め、既存の使い方にとらわれずに新しい視点も取り入れ、大野山の魅力の最大化を図ります。

② 持続的な管理・運営に向けて、マーケティングの視点から事業化を進めます

経営面においても持続的に管理・運営するためには、施設の基本的な維持管理に加えて、資源を活用した事業化（収益化）を進めることが重要です。また、来訪者や利用者にも適正利用を促すことが必要であることから、キャンプ場等施設の有料化も含めて、ニーズに合った新しいサービスを提供していくなど、マーケティングの視点をもった事業化を進めます。

③ 地域と連携し、地域全体の魅力化・活性化をめざします

大島小学校区域は過疎化や空き家増加などの問題がある中で、大野山のあり方は重要な課題です。また地域には宿泊施設や魅力資源などが点在しており、大野山との連携により相乗効果が発揮できる可能性もあります。大野山と地元の地域の連携を深めることにより、大野山を含む地域全体の魅力化・活性化をめざします。

④ 町・民間事業者・地域が連携した運営を進めます

大野山および周辺地域の魅力化・活性化に向けては、さまざまな主体が加わり、連携することで、新たな楽しみ方の提案や、協働による魅力発信が期待できます。そのためにも、大野山のより良い運営に向け、町内外の意欲とノウハウを有する民間事業者やNPO、町内の団体、観光協会などとの連携を進めます。

(2) 想定するおもなターゲット

- ・大野山の自然を大切に思い、適正に利用する人として。
- ・特に、自然や眺望、星空を楽しみたい人、キャンプを楽しみたいアウトドア好きの人を中心とします。
- ・猪名川町民、近隣市町の住民を中心に、京阪神の住民を想定します。

(3) 大野山の将来コンセプト

基本的な考え方を踏まえ、大野山の将来コンセプトを以下のように設定します。大野山の最大の魅力は、大都市部の近くにある豊かな自然環境です。特に、天文台があり、山の上まで車で行ける、阪神地域で一番高い山（六甲山系を除く）であることは大きなアピールポイントです。これらの魅力を最大限活かし、自然を大切にするアウトドア好きを惹きつけ、それらの自然環境を適正かつ持続的に保全・活用しながら施設を運営していくことが将来コンセプトです。

自然と星空の魅力あふれる大野山

(4) 将来イメージ

大野山の将来コンセプトを踏まえた将来イメージを以下のように描きます。



その1：自然共生キャンプフィールド

- ・大野山からの眺望や夕日、星空、鳥の声、風の音など多様な自然の魅力を静かにゆっくり楽しむファンが増えています。
- ・特に、ソロキャンパーやカップルなど、大人が楽しめるスポットになっています。
- ・宿泊だけではなく、デイキャンプや、自然派BBQフィールドとしても利用されています。
- ・キャンプ場の有料化により、利用者のマナー意識が変わり、適正に利用されています。
- ・キャンパーによる口コミや発信により、自然派キャンパーの人気スポットとなっています。



ナイトキャンプの写真

その2：360度見渡せる山頂の絶景ポイント

- ・恋人の聖地として、また、753mの大野山山頂から360度見渡すことのできる絶景や季節ごとの風景、朝日、夕日、星空など時間ごとの景色を見るために訪れる人が増えています。



その3：満天の星体感ミュージアム

- ・天文台のプラネタリウムや、満天の星を体感できる場として人気を博しています。また、星のソムリエのわかりやすい説明が評判になっており、変化する夜空の季節ごとのリピーターも増えています。



その4：毎週末が楽しみな魅力体験プログラム

- ・大野山が好きな町内団体、NPO、事業者、観光協会などが主体となり、自然、生き物、健康、農、食などをテーマにした体験プログラムが開催され、人気が出ています。
- ・大野山に初めて来る人が増加し、施設利用だけでなくプログラムへの参加など、様々な視点で楽しんでいます。



プログラムの例	実施主体の想定
子ども向け虫捕り自然学校	地域団体
初心者向けハイキング	観光協会やボランティアガイド
初めてのソロキャンプ	アウトドア関連の団体・事業者
山頂広場でのマウンテンバイク	アウトドア関連の団体・事業者
山頂での朝ごはん	町内のベーカリーショップ、カフェ
あじさい園での写真撮影	地域団体、プロ写真家等
恋人向け夜の星空ツアー	地域団体等、フレンチ料理店（キッチンカー）
大野山ゆかりの昔話発掘と登山道や案内板の整備ツアー	地域団体
大野つつじ再生プログラム	地域団体、自然等の専門家
その他のプログラム例：夕陽×コーヒー、日の出×朝ごはん、山頂×ヨガ、テントサウナ、ドラム缶でお風呂 等	

その5：森を守り、森のパワーを味わうアクティビティ

- ・大野山は豊かな森で覆われていますが、その森の保全管理が適正に行われています。
- ・遊歩道等を活用し、森の中を歩いたり、走ったりする魅力を味わえるウォーキングやトレイルラン、サイクリングなどのイベントが定期的開催されています。
- ・学校教育や子ども向けの学習プログラムのフィールドとして活用され、大野山への愛着が育まれます。
- ・教育の場として、活用がなされています。



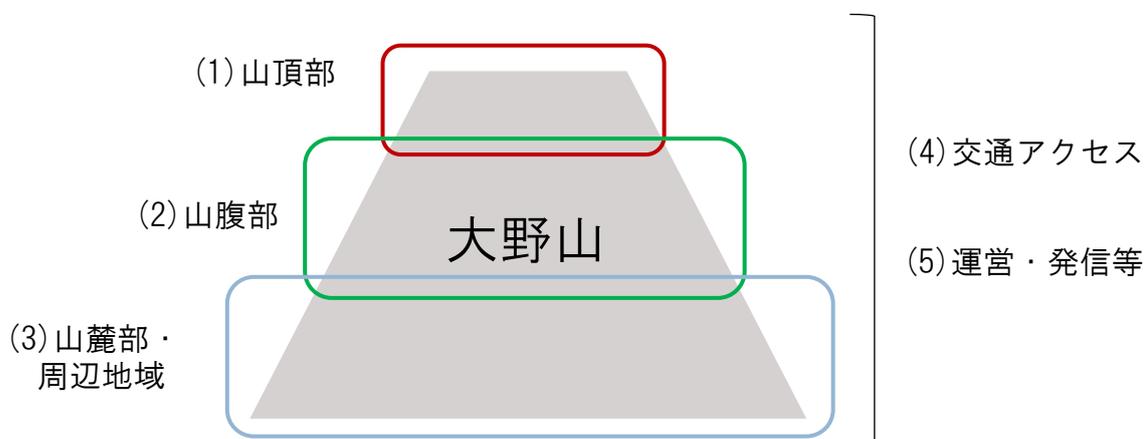
その6：山麓部や周辺地域とつながる活性化エリア

- ・大野山の取り組みと連携し、周辺地域において、棚田のオーナー制度、観光農園、庭先直売、ペンションや空き家活用（店舗や宿泊としての利用、交流拠点）などの取り組みが進むことで、来訪者が増え、関係人口の形成につながっています。
- ・大野山来訪者が周辺地域にも立ち寄り、地域の方と交流することで、移住・定住のきっかけにつながるとともに、周辺地域がにぎわっています。



6 取り組み方向

将来像実現のための取り組み方向は以下のとおりです。



(1) 山頂部の取り組み方向

1) キャンプ場の高質化

- ・ 既設キャンプ場の維持・充実化
- ・ グラウンドの団体用、バリアフリー用キャンプ場としての整備（車乗り入れ、電源確保等）
- ・ 広場機能の強化（体験プログラム実施での活用、キッチンカー、マルシェ等の誘致等）
- ・ 展示小屋の管理事務所機能と物販機能の強化

2) キャンプ場の運営充実化

- ・ キャンプ利用の有料化（設置管理条例の改正等）
- ・ 現場の管理体制の効率化
- ・ 効率的な予約システムの導入
- ・ キャンプ場利用のモニタリングによる検証・フィードバック
- ・ 運営コンセプトとガイドラインの策定
- ・ 利用者ガイドラインの策定

3) 天文台の適正な維持管理・運営

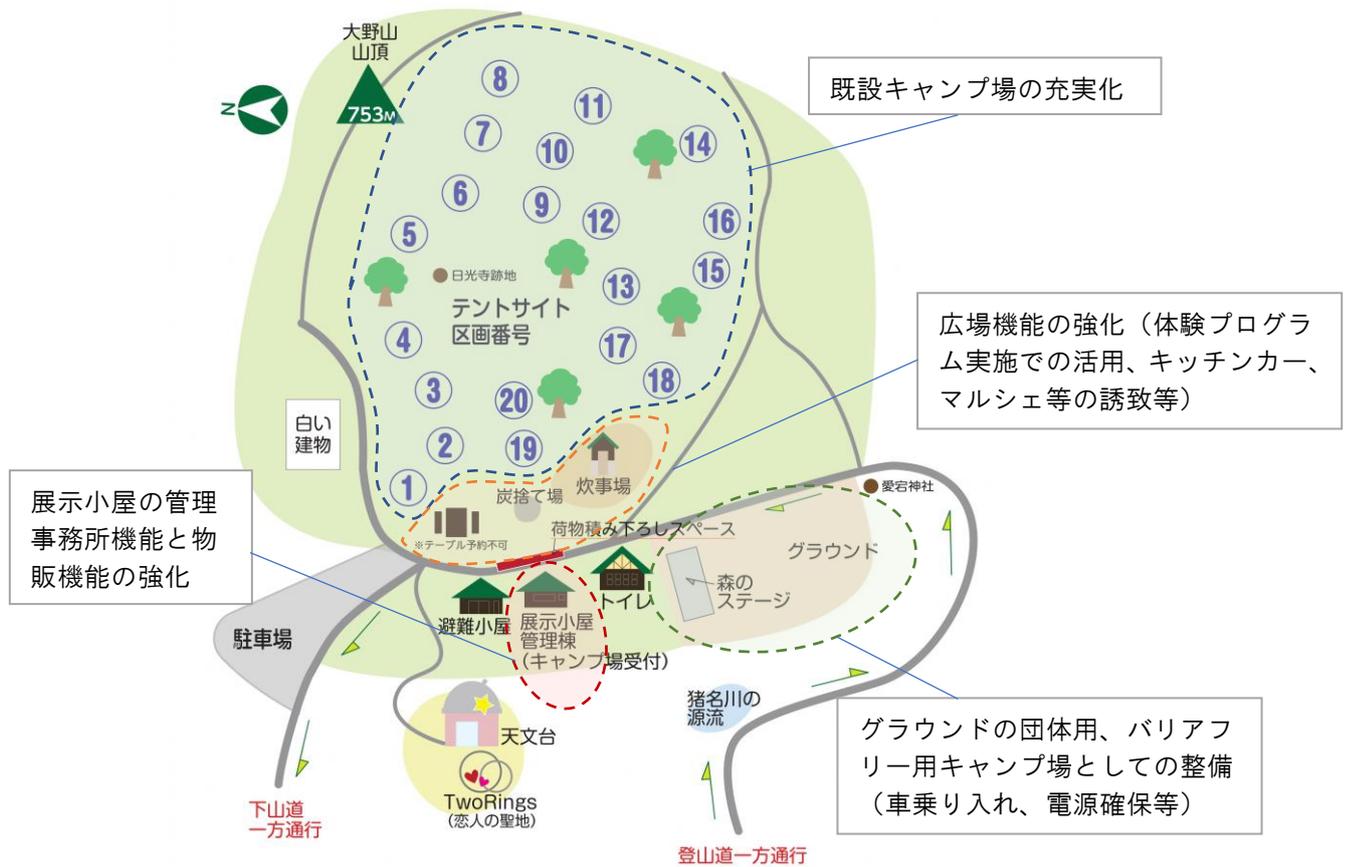
- ・ 現有施設の適正な維持管理
- ・ ターゲットに対応した魅力的な案内プログラムのさらなる充実

4) 魅力資源を活かした多様な体験プログラム等の提供

- ・ 町内外の多様な主体と連携した体験プログラム等の提供

5) その他山頂部の管理

- ・ あじさい園の適正な管理



(2) 山腹部の取り組み方向

1) 登山道等の整備・活用

- ・ 歩行者および自転車用の登山道の適正な利用指針等の制定（ルート設定、利用ルール・マナー 等）
- ・ 登山道の必要な整備と適正な維持管理
- ・ 必要なサイン整備
- ・ トレイルラン等のイベントでの活用促進

2) 森林保全と整備

- ・ 安全の観点からの森林整備と維持管理
- ・ 里山林整備

(3) 山麓部・周辺地域の取り組み方向

1) 柏原地区および大島小学校区域の活性化

- ・ 大野山と連携した地域の活性化の推進
- ・ 大島小学校区まちづくり協議会と連携
- ・ 各種体験等プログラムの試行・実施（トレイルラン、農業、空き家活用 等）
- ・ 各種取り組みの支援 等

2) 個別の施設等との連携

- ・ 民間施設等との連携（兵庫県立奥猪名健康の郷、ペンション、ゴルフ場 等）

- ・ 宿泊施設等との連携による森林セラピーの推進

(4) 交通アクセス

- ・ マイカーでのアクセスを基本として想定
- ・ 大野山山頂に至る上り下りのアクセス道の適正な維持管理等
- ・ イベント時など集客が見込まれる場合、利用制限や代替交通手段の配置などの対応

(5) 運営・発信等

- ・ 大野山の将来イメージの実現のために、当面、現行条例のもと、指定管理者を中心とする運営体制で可能な対応
- ・ さらに大野山の将来イメージの実現に向けて、取り組みや運営の検討、試行実施等を行った上で、大野山のより魅力的な利用が可能な管理運営方針とそれに対応する条例改正について検討
- ・ 発信については、本町や観光協会のホームページやSNS等を基本に、各種団体とも連携して、継続的に実施

7 ロードマップ（スケジュール）

現段階で想定される概ね4年間のおもな取り組みイメージ例は以下のとおりです。

①キャンプ場の有料化（2022年（令和4年）3月1日施行）

- ・モニタリングを実施します。

②大野山の多様な使い方の試行・評価（2022年度（令和4年度）～）

- ・大野山に関心のある町内外のさまざまな団体や事業者等により、大野山の基本的考え方は踏まえた上で、多様な使い方の企画提案や試行実施を促します。
- ・町は、広報面で協力するとともに、必要に応じて支援を行います（例：期間限定で予算限定の支援制度の設置等）。

③新たな管理運営に向けた対応（2022年度（令和4年度）～）

- ・上記②の試行・評価や民間事業者等のヘサウンディング調査を踏まえて、大野山のより魅力的な利用が可能な管理運営方針とそれに対応する条例改正について検討します。
- ・さらに、次期の指定管理者選定にあたっては、新たな管理運営方針の実現を担える者とするために、町内外の民間事業者等に広く呼びかける公募方式を想定します。

	大野山全体	指定管理者制度関係
2021年度 (令和3年度)	大野山将来ビジョン の策定	キャンプ場の有料化（2022年度 (令和4年度) 3月1日施行)
2022～2023年度 (令和4～5年度)	大野山の多様な使い 方の試行・評価 ↓	将来の管理運営方針と条件の検討 民間事業者等へのサウンディング調査
2024年度(令和6年度)		管理運営方針と条例改正案の検討
2025年度(令和7年度)		条例改正 指定管理者の公募・決定
2026年度(令和8年度)～	次期指定管理者による運営開始	

8 推進について

- ・町が中心となりつつ、現指定管理者の柏原生産森林組合や観光協会などと連携し、大野山の活性化に向け推進に努めます。
- ・定期的に猪名川町観光振興推進委員会へ報告を行い、助言を受ける場を設置します。